

令和4年度実施施策に係る事前分析表

(文R4-12-1)

施策名	文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実				部局名	文化庁政策課		作成責任者	今井 裕一		
施策の概要	文化芸術の創造・発展、次世代への継承を確実にいき、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会を提供する。							政策評価 実施予定時期	令和5年度以降に 実施		
施策の予算額 (当初予算) (千円)	令和3年度		令和4年度		施策に関する内閣の 重要施策(主なもの)	「文化芸術推進基本計画(第1期)」(平成30年3月6日閣議決定)					
	69,822,433		68,806,064								
達成目標1	子供たちに、芸術文化・伝統文化・暮らしの文化等を体験する機会を提供することにより、その子供たちに創造性や発想力、コミュニケーション力を身に付けさせるとともに、我が国の文化芸術の継承・発展に資する。				目標設定の 考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画(第1期)」(平成30年3月6日閣議決定)の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ、文化芸術の継承や教育に関して、子供たちの文化芸術への関わりに関する目標として設定(同目標においては、「本物の文化芸術の鑑賞や歴史・風土に根ざしたふるさとの文化芸術に触れる体験学習等の文化芸術に関する教育」に関する記載あり)。					
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠			
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	毎年度	【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 子供たちが創造性、発想力、コミュニケーション力等を獲得できたかどうかを測るものとして、事業内で行っているアンケートから本項目を抜粋。 (分母:事業実施学校数、分子:「豊かな心や感性、創造性を育むことができた」と回答した学校数) 目標値については、子供たちに豊かな心や感性、創造性を育むことができる実演芸術公演を提供することを目標として、毎年90%を維持することを目標に設定。 【出典】 文化芸術による子供育成総合事業に関する調査研究			
①子供達が優れた舞台芸術を鑑賞・体験することにより「豊かな心や感性、創造性を育むことができた」と回答した開催校の割合	89.3%	86.5%	86.4%	86.6%	89.8%	87.2%	90.0%				
	年度ごとの目標値	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%					

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	毎年度	
②伝統文化親子教室(教室実施型)参加者への意識調査のうち、子供が教室終了後も伝統文化等に関わりたいと考える割合	87%	88%	85%	90%	90%	89%	80%	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>教室に参加した児童・生徒及び保護者の継続への意欲・意向が肯定的に変化したかを測るものとして、事業内で行っている調査から項目を設定。（子供が「続けて習いたい」と回答した割合）</p> <p>また目標値については伝統文化の担い手の減少や高齢化等が顕著に表れている中、毎年80%を維持することを目標に設定。</p> <p>【出典】 伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査</p>
	年度ごとの目標値	80%	80%	80%	80%	80%		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	毎年度	
③伝統文化親子教室(教室実施型)参加者への意識調査のうち、保護者が教室終了後も伝統文化等に子供を関わらせたいと考える割合	90%	93%	90%	91%	93%	93%	80%	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>教室に参加した児童・生徒及び保護者の継続への意欲・意向が肯定的に変化したかを測るものとして、事業内で行っている調査から項目を設定。（保護者が「続けて習わせたい」と回答した割合）</p> <p>また目標値については伝統文化の担い手の減少や高齢化等が顕著に表れている中、毎年80%を維持することを目標に設定。</p> <p>【出典】 伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査</p>
	年度ごとの目標値	80%	80%	80%	80%	80%		

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	毎年度	
④子供の鑑賞、鑑賞以外の文化芸術活動へのそれぞれの参加割合	-	-	鑑賞 50.3% 鑑賞以外 32.2%	鑑賞 58.6% 鑑賞以外 28.8%	鑑賞 40.6% 鑑賞以外 21.6%	鑑賞 54.4% 鑑賞以外 22.2%	前年度比上昇	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>子供たちへの文化の体験機会の提供の取組に関する成果を測る指標として、子供たちがどれだけ文化芸術に触れる機会を得られる環境となっているかを測定するアウトカム指標として設定。</p> <p>目標値については、達成手段に掲げられるような取組を通じて、参加機会を増やしていくことを目標とし、「前年度比上昇」としている。</p> <p>【指標の根拠】</p> <p>分母：H30年度～R2年度は未就学児～高校生、R3年度は小学生～高校生が対象</p> <p>※本人ではなく、同居する18歳以上の親等が回答した数値となっているため、中学生・高校生など、親等と離れて行動する機会が増えている比較的年齢の高い層の行動については、回答から漏れている可能性があり、留意が必要である（全体として回答率がやや低めとなっていることが想定される）</p> <p>分子：</p> <p>「鑑賞」この1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを直接鑑賞したことがあると回答した者</p> <p>「鑑賞以外」この1年間に、学校以外で、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動を実践（創作や出演、習い事、祭や体験活動への参加など）したり、ボランティアとして活動を支援したことがあると回答した者。</p> <p>【出典】文化に関する世論調査報告書</p>
	年度ごとの目標値	-	-	-	-	-		
達成手段 (開始年度)			関連する 指標		行政事業レビュー 番号		備考	
新進芸術家等の人材育成 (平成14年度)			①④		0376		-	
伝統文化親子教室事業 (平成26年度)			①②③④		0386		-	
昨年度事前分析表からの変更点			達成目標の文言について、内容を正確に反映するため修正。測定指標②、③について、行政事業レビューと合わせて値を更新。達成目標の達成状況をよりよく測定するため、測定指標④を追加。					

達成目標2	我が国の芸術家や芸術団体による、優れた芸術文化活動を推進することを通じ、全ての人が文化芸術に触れられるようにする。						目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ、文化芸術の創造・発展に関して、我が国の文化芸術の担い手による文化芸術活動の実施に関する目標として設定（同目標においては、「文化芸術は、活発で意欲的な創造活動により生み出されるものであること」を踏まえ、「文化芸術活動を行う者の創造性」の発揮や「文化芸術団体」の役割に関する記載あり）。
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
①日本の誇りとして「文化・芸術」を挙げる国民の割合	H28年度 51.1%	H29年度 47.1%	H30年度 49.6%	R1年度 47.6%	R2年度 53.3%	R3年度 48.9%	R4年度 60.0%	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 多くの国民が我が国の優れた芸術文化活動に触れることができるような環境を作っていくことは、国民の我が国文化芸術に対する理解を深めることから、長期的なアウトカム指標として設定。「文化芸術推進基本計画（第1期）」において、進捗状況を把握するための指標として規定されている。なお、「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次方針）」では、「約6割の国民が日本の誇りとして「文化・芸術」を挙げることを目指す」とされていたことも踏まえ本目標値を設定。</p> <p>【指標の根拠】 分母：全国18歳以上の日本国籍を有する者 分子：日本の国や国民について、誇りに思うことはどんなことか聞いたところ、「すぐれた文化や芸術」を挙げた者の数</p> <p>【出典】社会意識に関する世論調査</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
②国民の鑑賞、鑑賞以外の文化芸術活動へのそれぞれの参加割合	鑑賞 59.2% 鑑賞以外 28.1%	—	—	鑑賞 67.3% 鑑賞以外 21.7%	鑑賞 41.8% 鑑賞以外 14.2%	鑑賞 39.7% 鑑賞以外 10.0%	鑑賞 80.0% 鑑賞以外 40.0%	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】 我が国の優れた文化芸術活動を推進することにより、国民がどれだけ文化芸術に触れる機会を得られる環境となっているかを測定するための一次的なアウトカム指標として設定。「文化芸術推進基本計画（第1期）」において、進捗状況を把握するための指標として規定されている。</p> <p>【指標の根拠】 分母：全国18歳以上の日本国籍を有する者 分子： 「鑑賞」この1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを直接鑑賞したことがあると回答した者 「鑑賞以外」この1年間に、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動を実践（創作や出演、習い事、祭や体験活動への参加など）したり、ボランティアとして活動を支援したことがあると回答した者 目標値については、「日本再興戦略2016」をもとに設定</p> <p>【出典】文化に関する世論調査報告書</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	—						
③新進芸術家海外研修制度により研修した者で、国内外で活躍している者の輩出 ※各分野において国際コンクールや表彰実績等から選定	実績	H29年度	—					
		H30年度	・猪股あき（現代アート、H29年度研修生、H30 Asian Art Award 特別賞）					
		R1年度	・慶野優太郎（映画演出、H30年度研修生、山形ドキュメンタリー映画祭「アジア千波万波」部門選出）					
		R2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・赤岩やえ（メディアアート、H29年度研修生、R2 芸術選奨美術部門新人賞） ・木口雄人（音楽：ピアノ、R1年度研修生、R2 ヨハネス・ブラームス国際コンクール最優秀伴奏者賞） ・奥田ななみ（音楽：ピアノ、R2年度研修生、R2 アルベール・ルーセル国際ピアノコンクール第1位） ・大崎由貴（音楽：ピアノ、R2年度研修生、R2 第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位） ・淵山準平（舞踊：バレエ、R2年度研修生、R2 第49回ローザンヌ国際バレエコンクール第5位） 					
		R3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・三井静（音楽：チェロ、H30年度研修生、R3 第28回ヨハネス・ブラームス国際コンクール室内楽部門2位） ・砂田愛梨（音楽：ソプラノ、H30年度研修生、R3 国際声楽コンクール「Premio Fausto Ricci」審査員特別賞） 					
	目標	毎年度	新進芸術家海外研修制度の研修終了者の中から、国内外の著名なコンクールや賞の受賞者を輩出する。					
測定指標の選定理由及び目標（水準・目標年度）の設定の根拠		<p>「文化芸術推進基本計画（第1期）」の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」において、芸術家等文化芸術を担う者が能力を発揮し、その功績が社会から評価され、一層尊敬、尊重されることで更なる文化芸術の発展へとつながるような、持続可能性のある社会を築くことが必要であると定められているため。</p> <p>【出典】文化庁調べ</p>						

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
④アート市場規模の拡大 【新経済・財政再生計画 改革工程表2021KPI関係】	—	3.3%	3.2%	3.6%	4.3%	3.2%	7.0%	<p>【測定指標の設定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>GDP、富裕層の数など、経済指標で上位に入る我が国の経済規模に見合った数値をアート市場の目標として設定。日本国内での美術品取引の増加を把握するため、国内在住者による以下のチャネルでの以下の商品（美術品）の取引額を測定値として設定。目標値は、グローバルなアート市場における日本の割合をフランスに次ぐ規模に引き上げるため、7%に設定。</p> <p>・画廊・ギャラリー、百貨店、アートフェア、美術品のオークション、ミュージアムショップ、インターネットサイト、作家からの直接の購入</p> <p>・美術品</p> <p>日本画、洋画、彫刻、版画、現代美術、写真、映像作品、陶芸、工芸、書、掛軸・屏風</p> <p>【新経済・財政再生計画 改革工程表2021KPI関係】</p> <p>【出典】日本のアート産業に関する市場レポート一般社団法人芸術と創造・一般社団法人アート東京調べ</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		

達成手段 (開始年度)	関連する 指標	行政事業レビュー 番号	備考
『食文化あふれる国・日本』プロジェクト (令和3年度)	①②	0404	—
芸術家等の活動基盤強化及び持続可能な 活動機会の創出 (令和3年度)	①②	0405	—
芸術祭・芸術選奨 (昭和21年度)	①②	0366	—
我が国の文化芸術の創造力向上と 国際的発信 (平成22年度)	①②	0365	—
国民文化祭 (昭和61年度)	①②	0367	—
全国高等学校総合文化祭 (昭和52年度)	①②	0368	—
日本映画の創造・振興プラン (平成15年度)	①②	0374	—
新進芸術家等の人材育成 (平成14年度) ※再掲	①②③④	0376	—
国際文化交流・協力推進事業 (平成14年度)	①②	0381	—
国際芸術交流支援事業 (平成26年度)	①②	0382	—
文化功労者年金の支給に必要な経費 (昭和26年度)	①②	0364	—
劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (平成25年度)	①②	0370	—
メディア芸術の創造・発信プラン (平成9年度)	①②	0375	—
東アジア文化交流推進プロジェクト (平成24年度)	①②	0377	—

文化芸術の海外発信拠点形成事業 (平成23年度)	①	0378	—
国際文化ネットワークの構築及び 文化多様性の保護・促進への対応 (平成12年度)	①②	0379	—
芸術家・文化人等による日本文化発信・相互交 流事業 (令和元年度)	①②	0380	—
我が国におけるアート・エコシステムの 形成 (平成26年度)	④	0383	—
文化財の国際協力の推進 (昭和62年度)	①②	0401	—
文化芸術・スポーツ活動の継続支援 (令和2年度)	①②	0387	コロナ対策関係
文化施設の感染防止等対策事業 (令和2年度)	①②	0371	—
コロナ禍からの文化芸術活動の再興 支援事業 (令和2年度)	①②	0373	—
文化芸術創造拠点形成進事業 (平成27年度)	①②	0369	—
博物館の機能強化 (令和4年度)	①②	新04-0020	—
美術品DXによる管理適正化・市場活性化 推進事業 (令和4年度)	①②	新04-0021	—
昨年度事前分析表からの変更点	改革工程表2021を踏まえて測定指標④の計測方法を更新。		

達成目標3	貴重な国民的財産である文化財を適切に保存し、次世代へ継承するとともに、積極的な公開・活用を通じて、広く国民が文化財に親しみ、その価値への理解を深めるようにする。						目標設定の考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ、文化芸術の発展・継承に関して、文化財の保存・活用に関する目標として設定（同目標においては、「我が国は、諸外国を魅了する有形・無形の文化財を有している」ことから、「その価値を十分に認識し、これを維持、継承、発展させることが重要」との記載あり）。
測定指標	基準値 H19年度	実績値 H29年度 H30年度 R1年度 R2年度 R3年度					目標値 R4年度	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
①近代（明治元年以降）の重要文化財（建造物）の件数	247件	348件	358件	366件	380件	394件	395件	<p>【測定指標及び目標値の設定根拠】 文化財を適切に保存し、次世代へ継承することに関する指標として設定。文化財の中でも比較的新しい近代の文化財については、その価値が十分に認識されないまま失われつつある場合もあり、保護を図る必要があるが、特に建造物の分野については、平成8年に登録制度が導入されるなど保護施策を進めているところ。目標値については、平成19～23年度の年平均増加数（年10件）を後年度も維持することを目標に設定。</p> <p>【出典】文化庁「重要文化財（建造物）の指定について」</p>
年度ごとの目標値	345件	355件	365件	375件	385件			
測定指標	基準値 H19年度	実績値 H29年度 H30年度 R1年度 R2年度 R3年度					目標値 R4年度	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
②近代（明治元年以降）の登録有形文化財（建造物）の件数	5,739件	9,625件	9,974件	10,339件	10,678件	10,959件	11,020件	<p>【測定指標及び目標値の設定根拠】 文化財を適切に保存し、次世代へ継承することに関する指標として設定。文化財の中でも比較的新しい近代の文化財については、その価値が十分に認識されないまま失われつつある場合もあり、保護を図る必要があるが、特に建造物の分野については、平成8年に登録制度が導入されるなど保護施策を進めているところ。目標値については、平成19～23年度の年平均増加数（年345件）を後年度も維持することを目標に設定。</p> <p>【出典】文化庁「文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）について」</p>
年度ごとの目標値	9,295件	9,640件	9,985件	10,330件	10,675件			

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
③直近一年で歴史的な建物や遺跡を直接鑑賞した人の割合	—	—	29.6%	26.6%	13.8%	11.6%	18.9%	<p>【測定指標及び目標値の設定根拠】</p> <p>平成30年度より毎年実施している「文化に関する世論調査」において、「あなたは、この1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを直接鑑賞したことはありますか」という質問に対し、「歴史的な建物や遺跡（建造物（社寺・城郭など）、遺跡、名勝地（庭園など）の文化財）」を選択した人の割合。広く国民が文化財に親しむ機会に関する指標として設定。過去の実績等を踏まえ、コロナ前の平均まで回復することを目標として設定。</p> <p>【出典】文化に関する世論調査報告書</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
④直近一年で歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館などを訪れた人の割合	—	—	22.7%	16.5%	7.7%	6.6%	12.1%	<p>【測定指標及び目標値の設定根拠】</p> <p>平成30年度より毎年実施している「文化に関する世論調査」において、「あなたは、この1年間に、コンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバル等の文化芸術イベントを直接鑑賞したことはありますか」という質問に対し、「歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館など」を直接鑑賞した文化芸術のジャンルとして選択した人の割合。広く国民が文化財に親しむ機会に関する指標として設定。過去の実績と新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた上で、令和元年度の実績値（16.5%）まで回復することを目標に、その中間目標として目標値を設定。</p> <p>【出典】文化に関する世論調査報告書</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R2年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
⑤文化遺産オンラインへの訪問回数（回）	3,079,909	1,884,600	2,042,900	2,401,600	3,079,909	3,686,386	3,780,000	<p>【測定指標及び目標値の設定根拠】</p> <p>「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）を踏まえ、文化芸術の継承と教育の充実に資する鑑賞機会増の進捗状況を把握する上で最適な「訪問回数」を指標として設定。目標値については、令和3年度にそれまでの10万回増/年から上方修正し、直近5ヶ年の平均増加数（約35万回）を後年度も維持することを目標に設定。</p> <p>【出典】文化庁調べ</p>
	年度ごとの目標値	1,666,666	1,777,777	1,888,888	1,999,999	3,430,000		

達成手段 (開始年度)	関連する 指標	行政事業レビュー 番号	備考
有形文化財 (昭和54年度)	③④⑤	0389	—
無形文化財 (平成17年度)	⑤	0390	—
文化財保護対策の検討等 (昭和46年度)	①②⑤	0391	—
国宝重要文化財等の買上げ (昭和25年度)	④	0395	—
国民文化祭を契機とした三の丸尚蔵館の地方展 開 (令和2年度)	④	0372	—
鑑賞・体験機会等充実のための事業推進 (昭和47年度)	③④⑤	0392	—
文化財管理及び保存活用等 (昭和25年度)	③④⑤	0397	—
地域文化財総合活用推進事業 (平成25年度)	③④⑤	0399	—
史跡等の買上げ (昭和32年度)	③⑤	0400	—
平城及び飛鳥・藤原宮跡等の買上 (昭和38年度)	③⑤	0402	—
平城宮跡地等整備費 (昭和40年度)	③⑤	0403	—
文化財保護共通費 (昭和25年度)	①②	0388	—
模写模造 (昭和28年度)	④⑤	0396	—
世界遺産普及活用・推薦のための事業推進 (平成26年度)	⑤	0393	—
国宝・重要文化財等の保存整備等 (昭和25年度)	①②	0398	—
アイヌ関連施策の推進 (平成9年度)	④	0394	—

地方税法 (昭和25年度)	①	-	国宝・重要文化財である家屋又はその敷地については、固定資産税及び都市計画税は課税されない。
地方税法 (平成8年度)	②	-	登録有形文化財の家屋に係る固定資産税及び都市計画税は、2分の1に軽減措置される。
登録有形文化財（建造物）事務担当者連絡会 (平成20年度)	②	-	地方公共団体において登録有形文化財建造物の保護行政に携わる者を対象として、登録制度の理解促進及び担当者間の情報共有を図る。
登録有形文化財建造物修理関係者等講習会 (平成22年度)	②	-	登録有形文化財建造物の調査や修理に関わる専門家、技術者及びその指導に当たる地方公共団体の登録有形文化財建造物担当者等に対して、必要な専門的事項について講習を行い、登録有形文化財建造物に係る諸問題に的確に対応できるように担当者等の資質の向上を期し、もって登録制度の普及と円滑な運営を図る。
租税特別措置法 (昭和47年度)	⑤	-	史跡、名勝、天然記念物及び重要文化財として指定された土地を国、地方公共団体、独立行政法人国立文化財機構・国立美術館、地方独立行政法人（博物館相当施設として指定された博物館又は植物園の設置・管理を主たる目的とするもの）に対する重要文化財・史跡名勝天然記念物として指定された土地を譲渡した場合の譲渡所得については、原則として、2,000万円まで特別控除又は損金算入される。
文化財行政講座 (昭和54年度)	①②	-	都道府県・市町村などにおいて文化財行政に携わる、原則として経験年数3年未満の者を対象に、職務の遂行に必要な基礎的な知識と実務上の課題について研修を行い、文化財の保存・活用の一層の推進を図る。
昨年度事前分析表からの変更点	測定指標①、②、⑤の目標値を更新。		

達成目標4	国民の国語に関する意識と国語の現状に鑑みながら、国語の改善及びその普及を図る。						目標設定の 考え方・根拠	「文化芸術推進基本計画（第1期）」（平成30年3月6日閣議決定）の「第2 今後の文化芸術政策の目指すべき姿」にある「目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育」を踏まえ、文化芸術の創造・発展・継承のための基盤に関する目標として設定（同目標においては「言葉は、論理的思考力、想像力、表現力などの基盤」である旨の記載あり）。
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H13年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
①「毎日使っている日本語を大切にしているか」という質問に対し、「大切にしている」と回答した者の割合	69.1%	64.9%	—	—	73.9%	—	75%	【測定指標及び目標値の設定根拠】 文化芸術の創造・発展・継承の基盤である国語について、その改善の必要性を判断するため、国民への浸透の程度を測る指標として、国民の国語に対する意識を調べる「国語に関する世論調査」から「毎日使っている日本語を大切にしているか」を尋ねた年度の調査結果を選定。 目標値は、過去4回分(※)の経年調査の平均値よりも高い75%に設定。 (※) 当該調査項目については数年に一度調査している項目であるため、直近ではH20年度(76.7%)、H27年度(78.5%)、H29年度、R2年度の4回の調査における平均値よりも高い値となるよう、目標値を設定している。 【出典】 国語に関する世論調査
	年度ごとの目標値	75.0	—	—	75.0%	—		
達成手段 (開始年度)		関連する 指標		行政事業レビュー 番号		備考		
国語施策の充実 (昭和43年度)		①		0384		—		
外国人に対する日本語教育の推進 (昭和42年度)		—		0385		—		
昨年度事前分析表からの変更点		測定指標①の目標値を更新。						